

インマヌエル中目黒キリスト教会
聖日礼拝2007.8.26

メッセージ
ローマ書連講44

『互いの霊的成長』

ローマ人への手紙14章13～23節
竿代照夫牧師

聖書朗読

新約聖書

ローマ人への手紙14章13~23節

13 ですから、私たちは、もはや互いにさばき合うことのないようにしましょう。いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまりきになるものを置かないように決心しなさい。

14 主イエスにあって、私が知り、
また確信していることは、それ自体
で汚れているものは何一つないとい
うことです。ただ、これは汚れてい
ると認める人にとっては、それは汚
れたものなのです。

15 もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや愛によって行動しているのではありません。キリストが代わりに死んでくださったほどの人を、あなたの食べ物の中で、滅ぼさないでください。

16 ですから、あなたがたが良いとしている事がらによって、そしられないようにしなさい。

17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。

18 このようにキリストに仕える人は、神に喜ばれ、また人々にも認められるのです。

19 そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。

20 食べ物のことで神のみわざを破壊してはいけません。すべての物はきよいのです。しかし、それを食べて人につまずきを与えるような人のばあいは、悪いのです。

21 肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは良いことなのです。

22 あなたの持っている信仰は、神の御前でそれを自分の信仰として保ちなさい。自分が、良いと認めていることによって、さばかれない人は幸福です。

23 しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。

ローマ書連講44

メッセージ

ローマ書連講44

『互いの霊的成長』

ローマ人への手紙14章 13~23節

竿代照夫牧師

主テキスト：「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」

(ローマ14:19)

はじめに：
たかが食べ物、されど食べ物

1. 問題の歴史的背景

- 教会にユダヤ人が占めていた頃
- 異邦人が入ってきて：
「異邦人クリスチャンも、ユダヤ人的習慣を守るべき」「いや、そうすべきではない」という対立
→エルサレム会議
- エルサレム会議の結論：信仰の自由（異邦人クリスチャンは律法から自由但し「偶像に捧げた肉を食べないこと」は最低条件）

・コリント、ローマなどの教会での問題：

「偶像に捧げられた肉を食べてよいか」

あるクリスチャンは「疑わしいものには触らない」、他のクリスチャンは「何を食べても構わない」

→論争と対立

2. 食べ物問題が提起した、より深い問題

- ①救いは信仰のみによるのか、よい行いによるのか
- ②偶像との形式的な関わりでさえも「罪」なのか否か
- ③教会内での意見の相違はあってはならないか、あっても仕方がないか
- ④意見の相違があるとすれば、どう克服するのか。

3. 今日のテキストの扱い

- ・テキストの解説
- ・パウロのポイントの整理し
- ・今日的課題に適用

A. テキストを理解しながら読み進む

1. 裁きあわなないように（13節a）
 2. 躓きを置くな（13節b）
 3. 食べ物の汚れはない（14節）
- マルコ7:15,19、使徒10:11-15

4. 愛の配慮の必要（15-16節）

5. 神の国で大切なものは？

（17-18節）：

義と平和と聖霊による喜び

6. 私達の目の付け所（19-21節）：

平和と互いの霊的成長

7. 自分の確信を確かめ、そこに生きる（22-23節）

B. クリスチャンの実践に関する 諸原則

マルチン・ルターという言葉「キリスト者は、誰にも隷従しないという点で、最も自由な存在である。同時に、キリスト者は、すべてのものに隷従するという点で、万人に対して最も忠実な僕である。」

1. 福音の自由（ガラテヤ5:1）
2. 個々に与えられる光
3. 裁きあうのは危険
4. 違いを評価
5. 愛の配慮

C. 今日の問題について

1. クリスマン間の違い

- ・ 服装・趣味・スポーツ・飲酒・法事・教会運営の方法・・・を巡って
- ・ 「統一見解」は必要か？
- ・ むしろ、パウロの諸原則を捉えること

2. 例として：クリスマンと飲酒

終わりに

1. 互いの相違を認め合おう
2. 互いの建て上げに力を注ごう